

世田谷区胃がん（内視鏡）検診

<胃がん検診の目的>

胃がん検診は症状の見られない健常者を対象とし、できるだけ早い段階で胃がんを発見し治療する目的で行われています。検査法には①バリウムを用いる X 線検査 ②内視鏡検査 があります。当院では経鼻内視鏡検査を行います。

<検査方法>

当院では鼻から挿入できる細い経鼻内視鏡を使用します。通常は鼻から挿入しますが、鼻の手術をされている方や鼻腔が狭い方、ご希望があれば口から行うことも可能です。

まずは胃内の粘液などをきれいにするお薬をお飲みいただき、その後鼻腔の麻酔、拡張を行います。咽頭にも麻酔を行ってから検査を始めます。検査時間は 10 分前後です。

異常が見られた場合には、病変を見やすくするための色素を散布したり、病変の一部を採取することがあります（生検）。注1,2

注1；色素散布や生検を実施した場合には別途費用が発生します。保険診療となるため健康保険証をあらかじめご持参ください。

注2；生検した場合には粘膜に小さい傷ができます。当日のアルコール摂取は禁止です。また刺激の強い食事や長湯、過激な運動も避けてください。

<検査に伴う偶発症の可能性・その他>

内視鏡検査は安全な検査ですが、ごくまれに偶発症の報告がみられます。その頻度は全国調査により 10 万件に 87 件とされています。

- ① 鼻腔・咽頭の局所麻酔薬でアレルギー反応（呼吸困難、血圧低下、ショック症状など）を起こすことがまれにあります。
- ② 内視鏡の接触のために鼻腔・咽頭の粘膜に傷が付き出血、穿孔することがあります。帰宅後に鼻出血がおこり止血できない場合にはご連絡ください。
- ③ 生検した場合、その部から出血することがあります。黒色便などの症状がある方はご連絡ください。

<生検および鎮静剤使用について>

生検について；検査中に医師の判断で必要に応じて組織の一部を採取する生検を行うことがあります。その際には検診費用のほかに保険診療として別途自己負担金が発生します。当日は飲酒、運動、刺激の強い食事はしないで下さい。ただし、抗血小板薬、抗凝固薬を内服中の方は検診時の生検は行いません。

鎮静剤について；世田谷区の胃がん（内視鏡）検診では「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル」に基づき、原則的に鎮静剤は使用せずに実施しますが、ご希望の方は診察時に医師にご相談ください。別途自己負担金が発生します（1000 円+消費税）。鎮静剤使用により眠気、ふらつき、呼吸抑制などの副作用が出現する可能性もありますので、検査後は 30 分お休み頂きます。当日の車、自転車、バイクの運転はできません。